

## 会議録

○ 平成20年度 第4回学校組織の見直しに関する検討委員会

開催日：平成20年5月13日

場 所：高知県教育センター分館 大講義室

※ この会議録は、内容の要約であることをご了承ください。

事務局

— 資料説明と確認 —

○ 意見聴取の概要の報告（資料1～28）

— 報告事項についての質疑 —

○ 特になし

— 報告事項についての意見 —

委員

○ 全学校長に対するアンケートということで、こういうものを元に話し合っていきたい。P7で「学校が組織的によく機能している」が15%、「学校が組織的に機能している」が77%となっているが、P8のまとめでは、「組織としてよく機能している」と答えている学校長は少なく、何らかの課題を感じているのがうかがえる。」と記述しているが、学校長は少ないというところが気にかかる。また、1-(2)「何を大切にしていますか」に対して、「組織の和」と答えた学校長が多く、1-(3)の「組織的に機能させるために、何が大切か」に対して、「人材育成」との答えが多くなっている。このからみについて見えにくいので、県教委の分析を聞きたい。

事務局

○ 1点目は「よく」機能している、つまり組織が十分機能しているという意識が、低いと判断している。2点目、1-(2)の「組織の和」が多いのは、組織が機能している結果ととらえている。また、「人材育成」は組織を作っていくための素材と考えており、「機能していない」と答えたところの「組織の和」が良くないのではなく、組織を作っていくための大切な要素として「人材育成」をとらえているのではと考えている。

委員

○ 高知市の職員体制や学校組織をみていて、何らかの活性化のための組織の見直しが必要ではないかという考えであり、抑制の立場でものを言っているのではない。アンケートのまとめとして書く場合、概ね機能していると答えた学校

長が7割いるので、これを前段に書いて、その後「よく機能している」は15%であると、まとめると良いのではないか。そうでないと、県のまとめとして、誤解を招き、素直に読んでくれないのではないか。

副会長 ○ 県立学校の校長の意見を聞いても、今回のアンケートの通りと理解している。校長の事務量は膨大で、決裁だけでも山積の状態である。教頭複数配置の大規模校では、副校長を導入したらと考えている。ただし、定時制、通信制については、一考を要すると考えている。例えば、高知工業など規模の大きいところには必要だと考えている。しかし、県立中学校は、中高一貫の立場にあるので、慎重にと考えている。

主幹については、基本的に導入については賛成の立場だが、現在、主任制度が機能している中で、他校で部長であった者が、異動によって転任してきても、すぐに部長にすることは難しい。したがって、職を任命されるのならば、スムーズにいくのではないか。

指導教諭については、あまり必要性を感じなかったが、現在の教員の心理や学校の状況をみると、先生の指導力をアップさせるためには、指導すべき立場の職が必要かと考える。

アンケートについては、教職員組合以外にも聞いたらどうかと思う。

事務局 ○ 今の段階では、他のアンケートの実施は考えていないが、これからの会の流れの中では、考えていく必要もあるのではないかと考えている。

委員 ○ 現在の主任制度についての回答をみると、連絡調整はできてはいると思うが、それで組織として機能しているかという点、十分であるとは考えていない。組織としての学校運営をしていくなかでは、連絡調整だけでなく、指導助言もできるような核となる人材が必要だと考えている。また、特別支援学校としては、寄宿舎指導員の指導等を考えたときには、必要であると考えます。

委員 ○ 校種別の3つの円グラフを1つにまとめたグラフを示し、まとめたグラフで討議することには、難がある。

発達段階を考慮し児童生徒の目に立って、組織を見直していく必要がある。管理職と管理職以外の教職員の意識の違いもあるので、そのあたりも共通認識したい。

また、地教委の教育長が自らの管轄する学校の実情をどう把握するかも大切であり、どう連携して討議するのか、根拠もほしい。

3点目として、リーダーシップという言葉があいまいである。「リーダーシップとは、こういうものである。」と答えることができないなければならない。

- 事務局 ○ 発達段階については、グラフを見ると、小中高で異なる傾向があるので参考にしたい。管理職以外の教職員への調査についても今後検討したい。リーダーシップについても、事務局の内容をきちんと示していきたい。
- 委員 ○ 校長の意見を聞いて、学校現場によって違いを感じた。導入に対して良い部分は、活かして欲しい。逆に問題点もクローズアップして欲しい。出てきていない意見も聞き、現場の声を組織の見直しに活かして、現場がやりやすいようにして欲しい。
- 委員 ○ 運営側の立場からの意見が多いが、日々授業をしている立場から言わせてもらいたい。子どもが活かされる組織、教諭が活かされる組織、教諭が学校組織の一員としての自覚が高まるような学校組織を考えていきたい。そのためには、教諭一人ひとりの意識の変革につながるような、話し合う時間が各学校では必要ではないか。学校組織を見つめ直し、どう改革すべきか考え、話し合える場があればよい。
- 委員 ○ 教諭についての意見としては、教職員組合からの聴取はしたが、全教職員からの意見聴取は、なかなか難しい。そこで、学校に出向き、意見を聞くような機会を考えてみたい。
- 委員 ○ どうして、この委員会が立ち上がったのか、1回目から疑問を持っていた。「組織をどうしますか」という会で、組織を考えることにより、生徒指導の問題が解決するかといえば、そうではないと感じている。目的とは別の話。仕組みはシステムであって、どう運用するかは別の話のように見える。現場で生徒指導の問題が出たときに、みんなで考えることであり、組織とは別の話しになる。
- この程度の組織変更ならさっさとやればいいのか。
- アンケートの設問については、アンケートをとる前から、答えがわかっているのではないかなという印象も受けた。
- 委員 ○ 主幹教諭、指導教諭になった場合、降格というともあり得るのか。導入したら、生徒指導、教務等の分掌や役割も決まってしまうのか。
- 事務局 ○ 主幹の置き方もいろいろあって、やり方次第だが、生徒指導、教務という決まった形でなく、主幹という職での置き方になる。降格は不利益になるので、そうはならない形での異動となる。

(休憩)

— 今後の方向性について —

- 委員 ○ この段階で報告書は、まとまるのか。学校長のアンケートからも概ね組織運営に課題があり、概ね新しい職を求めているので、報告書の体をなすと思うが、4の新しい職の必要性については、県立、特別支援学校の場合はよいが、小中学校の場合は、異なるのではないか。なぜ、新しい職が必要なのか、もう少し時間が必要ではないか。新しい職を導入することで、組織がどのように活性化し、どのような課題の解決につながるのか、例えば、本県の喫緊の課題である「学力」「不登校」「生徒指導」等の解決につながるように、もっと考えるべきではないか
- 委員 ○ どうも明確でない部分がある。本県として、どうとらえるか。組織、人材育成の観点から、県教委の方が、見解を提出して、意見を伺ってはどうか。国の動きに沿うのではなく、県としての方向性、主体性を示して欲しい。高知県として、このまとめ方では弱いのではないかと思う。
- 委員 ○ そろそろ事務局の方から、提案があっても良いのではないか。1～4回の会の流れが切れ切れになって、スパイラルになっていない。
- 県として学校組織をどうとらえ、どう考えていくのかの意見を踏まえた提案が欲しい。国の流れに乗るのではなく、高知県の課題改善点はどこか、これだけは変えていくという姿勢で取り組まなければならない。
- 校種別の意見、各校長の意見の違いもあるので、地教委の教育長の意見も聞きながら、必然的に置くべき所には、置いていくことが必要ではないか。
- 事務局 ○ 報告書の骨子を示したが、今のような内容を次回から提案していきたい。
- 委員 ○ これまで出された意見と異なることは、言っていない。一度、原案を作っていただきたい。これまでの3回の意見も原案に入れ込んで、県としての文書を提示してもらえると良い。
- 委員 ○ 先程の3名の委員さんの意見と同じ。校種、規模もまったく違うので、おしなべて考えることは難しい。自分の学校の規模ならば、今のシステムでも、うまくいくと考えている。規模、校種等、もう少し細分化して見ていくことも必要と考える。
- 会長 ○ 一律的には、いかないので、規模、校種を考えながらいく必要がある。
- 委員 ○ 教職員団体からの聴取も、各校種ごとの回答を求めていたが、あまり意見を聞けなかった。アンケートについても、事務局で、校種ごとに整理して出してもらおうと良い。

- 委員 ○ うちの学校の場合、教職員の年齢が若いので、指導教諭をおいてやれば、良くなるのではと考えている。副校長はいらなと言ったが、必要な職は置くと良いと考える。
- 副会長 ○ 今、主任手当のついている教諭がいて、さらに県立学校の場合、様々な教育課題に対応する校務分掌がある。それも主幹教諭の範疇に入れてもらえる余地があるのか。
- 事務局 ○ 既存の主任がそのまま、主幹とは考えていない。  
○ いろいろなバリエーションがあると考えている。
- 会長 ○ 提案があったように、県としてのたたき台ができた段階で、検討をしていくということで、今回のまとめさせていただく。

— 今後のスケジュールについて —

- 事務局 ○ 次回、全てを一度に県教委の考え方を出すのは、難しいので、場合によっては、部分的になるかもしれないが、お示しをさせていただきたい。
- 委員 ○ 粗いものであっても、頑張ってトータルで出して欲しい。
- 委員 ○ 検討会の手前に資料を配付してもらい、手前に検討してから会に臨みたい。
- 事務局 ○ 御意見を尊重して、対応はしていきたい。7月については、議会との絡みで、変更になる可能性もある。
- 会長 ○ 6月の開催については、市議会の一般質問の日程も心配である。
- 事務局 ○ 再度、各委員さんと日程を調整させていただくことで、ご了解を願いたい。
- 会長 ○ 日程については、御理解をいただきたい。また、先程のたたき台提案の件については、100のものを求めているわけでは無いので、是非提案していただき、我々も検討していきたい。

— 終 了 —